



千葉商科大学

NEWS LETTER

-Vol.33- 2010年4月号

「千葉商科大学ニューズレター」は、教育・研究、地域連携、国際交流などさまざまな側面で行われている千葉商科大学の活動、「実学教育」のさらなる充実をめざした戦略的な取り組みなどの最新情報を、日ごろご支援いただいている皆様にお伝えしています。

ニューズレターの全文や記事の詳細は、本学 Web サイトに掲載されています。
<http://www.cuc.ac.jp/>

◆ご意見、ご要望をお寄せください◆

発行者
 千葉商科大学
 戦略広報センター

TEL
 047-373-9968
 FAX
 047-373-9969
 E-mail
 p-info@cuc.ac.jp



千葉商科大学学長 島田晴雄からみなさまへ



学長 島田晴雄

4月を迎え大学も新学期となりました。キャンパスも若い息吹あふれる新緑の季節になります。

3月21日(日)に学位記授与式が行われましたが、昨年来、世界金融危機の後遺症もあり、日本は深刻な不況のもとで、卒業する諸君は就職で大変苦勞をしました。千葉県の大学の就職希望者に対する就職率は57.8%(平成22年2月1日時点千葉労働局発表)でしたが、その中で本学は3月末で77.7%と千葉県の水準をはるかに超える成果をあげました。とはいえ、数百人の卒業生が定職を持たずに卒業せざるを得なかったのは事実です。

本学では、これらの諸君に対してキャリア支援センターが全力で支える体制をとりました。今年の卒業生全員に信頼カードを配り、キャリア支援センターは卒業生の求めに応じてきめ細かい就職支援のサービスをいたします。

昔と違い、これからは会社に個人の運命の全てを託すのではなく、一人ひとりが自分のキャリアを、自身の思いやニーズに合わせて築いていく時代です。本学では2010年3月末時点で約380社の企業とアライアンスを組んでおり、卒業後にもこれらの企業の情報を提供して、支援を行って参ります。したがって大学の卒業は通過点に過ぎず、むしろこれから新しい人生に向けて希望を持ち努力していくことが肝心です。

進化を続ける本学では様々な新しい発展があります。体育会硬式庭球部が株式会社化し、テニススクール事業を始めましたが、その運営を通して会社経営の勉強をするという工夫が、メディアの注目をあびています。

また、日本のプロ野球界でコーチとして名声を博した小林正之氏が本学硬式野球部の監督に就任され、野球部は新時代を築くべく様変わりしつつあります。本物の野球をしたい高校球児達はどうぞ本学を受験してください。

◆島田学長からの熱いメッセージを、オープンキャンパスで聴こう!! 予約不要

オープンキャンパス 2010 6/20(日)、7/11(日)・31(土)、8/1(日)・29(日)、9/5(日)、10/3(日)

共通プログラム：大学紹介、体験授業、個別相談、キャンパスツアー、学生座談会、IT放送スタジオ体験などを予定

桜満開!! 平成22年度入学式挙行

4月3日(土)、平成22年度入学式が、大学院は本館7階会議室において、学部は体育館アリーナにおいて挙行されました。当日はまるで入学式を待っていたかのようにキャンパスの桜が満開になり、新たな生活をスタートさせる日にふさわしい光景となりました。入学式では島田学長より激励の言葉の他、本学の取り組みの紹介がありました。



学部入学式では在学生の表彰式も行われ、新入生にとって、これから4年間の一つの道標になったことと思います。本学では学生の皆さんの飛躍をサポートしていく取り組みがたくさん用意されています。輝かしい未来のために夢や希望、可能性を大切に育てていく。そのような大学であり続けることが千葉商科大学の使命です。



子どもたちがつくる、子どもたちの街！「キッズビジネスタウンいちかわ(KBT)」を開催

3月6日(土)・7日(日)、今年で第8回目となる「キッズビジネスタウンいちかわ(KBT)」(後援:市川市教育委員会・江戸川区教育委員会)が開催され、2日間で延べ1,200名を超える小学生や幼児と、ほぼ同数の保護者が来場し、盛大な催しとなりました。このKBTは、「子どもたちがつくる、子どもたちの街」の趣旨のもと、小学6年生以下の児童、幼児が市民となり、皆で働き・学び・



遊ぶことで、共に協力しながら街を運営し、社会のしくみを学ぶ教育的行事となっています。企画から運営まで本学学生が主体となり、平塚商業高校や近隣大学からの協力学生など450名余のスタッフと、50名を上回る市川市、地域ボランティアの協力を得て実施されました。参加した子どもたちからは「自分で働いてお金をもらったのでうれしかった」などの感想があり、また、保護者の方からは「子どもたちに接する学生さんたちが優しく丁寧だった」など、心温まるお言葉を多数いただき、成功裏に終了しました。

◆ キャンパス新設備のご紹介 ◆

太陽光発電システムの導入

本学は、2003(平成15)年に千葉県内の大学としてはじめてISO14001を取得して以来、環境負荷低減のため、様々な取り組みを行い、エコキャンパスづくりを推進しています。このたび、3月15日に1号館屋上に地球温暖化の原因となる二酸化炭素の排出が無く、クリーン・エネルギーとして注目される太陽光発電装置システム(12Kwh)を新たに導入し、災害時の電力確保をはかると共に、電力削減に取り組めます。



1号館屋上に設置された太陽光パネル 太陽光発電インフォメーションパネル

野田グラウンド

これまで、本学野田グラウンド野球場は老朽化が著しく、雑草や平でない内野、土地の性質上水はけが悪いなど課外活動や野球部の練習に際し、十分な練習環境が整っていませんでした。1月5日より整備工事が行われ、グラウンド用土の入替え整地作業、排水溝の整備、バックネットの張替え、ダッグアウト・部室・更衣室・化粧室の新設等が2月末に完了。きれいに整備されたグラウンドでは、早くも硬式野球部の練習、オープン戦が行われています。



あらゆる活動が活躍の場!

学生の活動 ①

「えどがわ商店街産学プロジェクト」で活躍!!

私たち鈴木孝男ゼミでは、地域活性化事業をテーマの一つとしています。主に、江戸川区のJR小岩駅周辺を拠点として活動し、地域誌「L2」の作成、イベントの企画・運営など、小岩の商店街を中心とした多くの企画に参加し、地域の活性化に力を入れています。特に、ゼミ生全員で力を入れて行ったイベントとして「恋話物語」があります。「恋話物語」とは、「小岩(こいわ)=恋話」にちなんで、「恋と愛の話題に満ちあふれた夢と希望と賑いのある街」をタウンコンセプトとして、千葉商科大学、商店街、江戸川区の三者で協働したイベントです。鈴木ゼミは「恋話物語」で実施する企画の一つを担当し、一から検討をスタートしました。江戸川区役所の職員の方と話し合いを重ね、学生主体の最大の企画に「ファッションコンテスト」を立案しました。このコンテストは、イベント当日に私達学生がJR小岩駅周辺で、あらかじめ設定された金額・時間内で衣類を購入し、自分たちでファッションコーディネートをしてコンテストをするといった内容でした。この企画の狙いは、

本物を学ぶゼミ

朝倉秀人さん
経済学科3年、泊高校出身

若者の視点で商店街の魅力を引き出すことにあります。小岩で購入した衣類でコンテストをすることで、小岩の商店街がカバーするファッションの幅広さを周知しようと考えたのです。この企画には女子美術大学の学生さんも参加していただき、コンテスト会場のデザインも手がけていただきました。当日は500人も地域の方が足を運んでくださり、イベントは大いに賑わいました。鈴木ゼミでは「自分たちの考えを形にする」という企画がたくさんあります。普段の学校生活では学ぶことが出来ない、実社会で働いている方々との触れ合いを通してたくさんの事を学ぶことができます。社会に出て役に立つことを体験している事がこのゼミの魅力であり、大きな財産です。



恋話物語「ファッションコンテスト」の鈴木ゼミ生と女子美術大学の学生

お知らせ

政策情報学部 創設10周年記念行事

◆政策情報学部創設10周年記念式典
日時：平成22年5月14日(金) 15:00～16:00(受付14:00)
場所：702教室(7号館地下1階)

◆政策情報学部創設10周年記念シンポジウム
日時：平成22年6月11日(金) 14:00～17:30
場所：702教室(7号館地下1階)
※詳細は、決定次第 Web サイトに公開します。

■ダイヤルインの導入について 2010年4月1日より、千葉商科大学はダイヤルインを導入いたしました。各種お問い合わせは、Webサイトの「お問い合わせ一覧」にてご確認ください。